

若年雇用者の現状と今後の支援の方向性

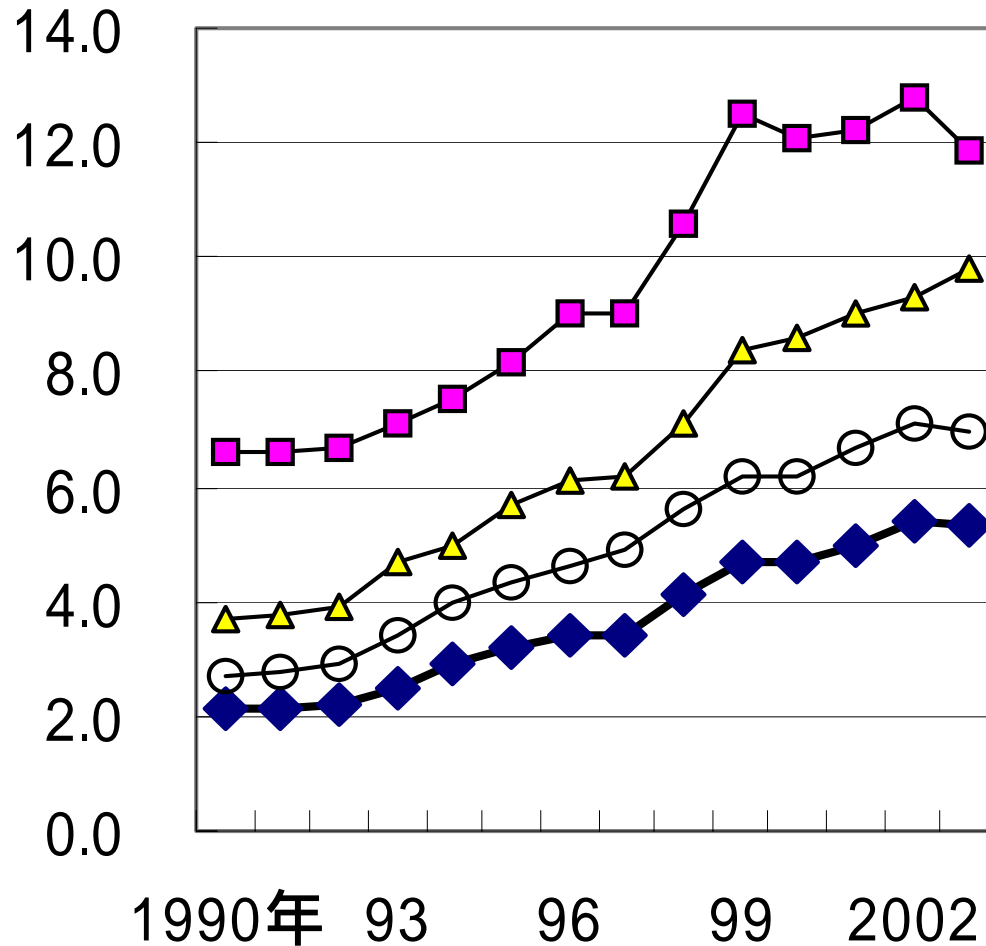
労働政策研究・研修機構

小杉礼子

若者の就業状況の変化

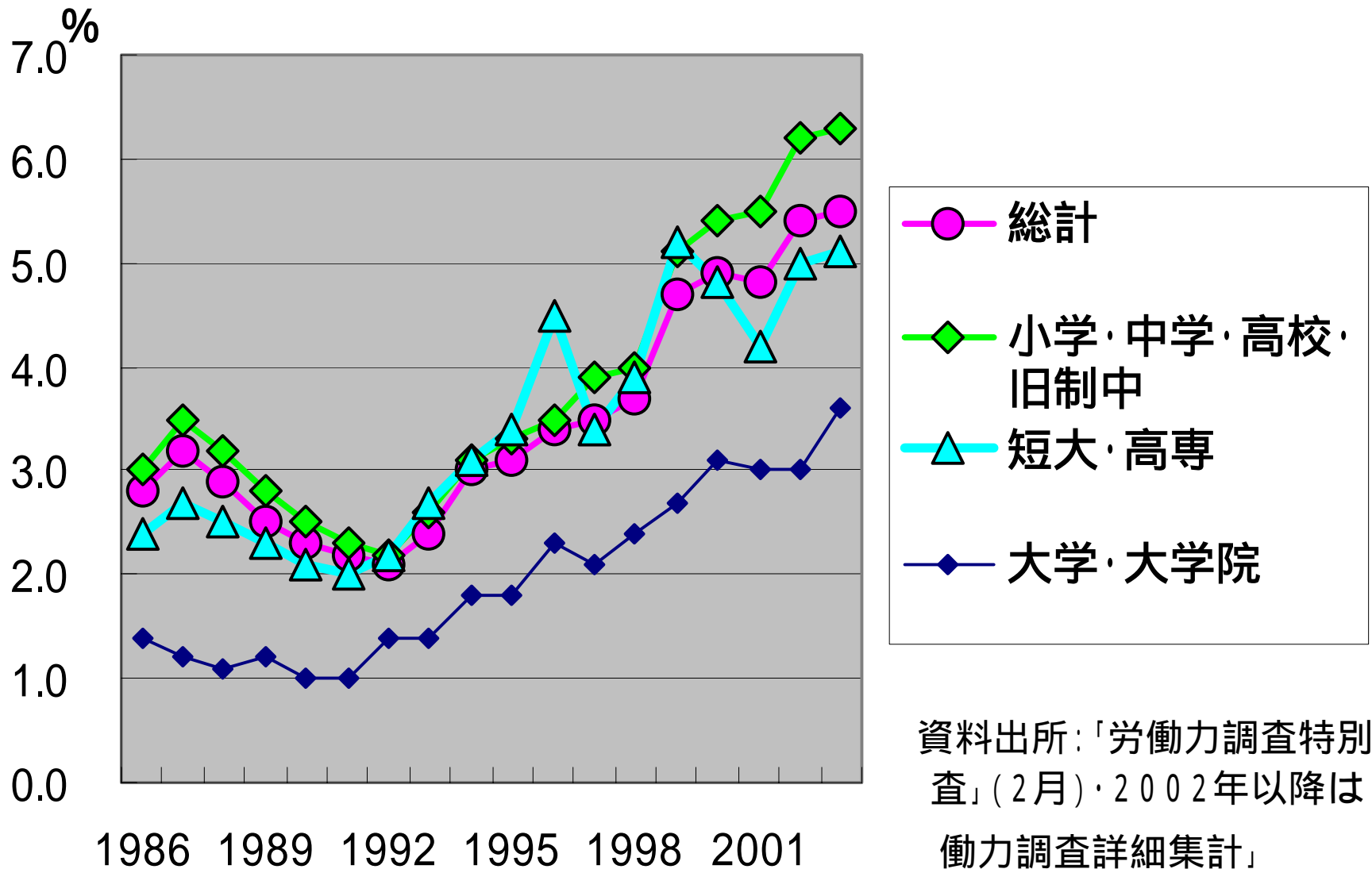
- ◆ 若年失業率の上昇
- ◆ 正社員以外の雇用の拡大
- ◆ 日本型NEET

失業率の推移 (年齢別)



資料出所: 総務省「労働力調査」

失業率の推移(学歴別)



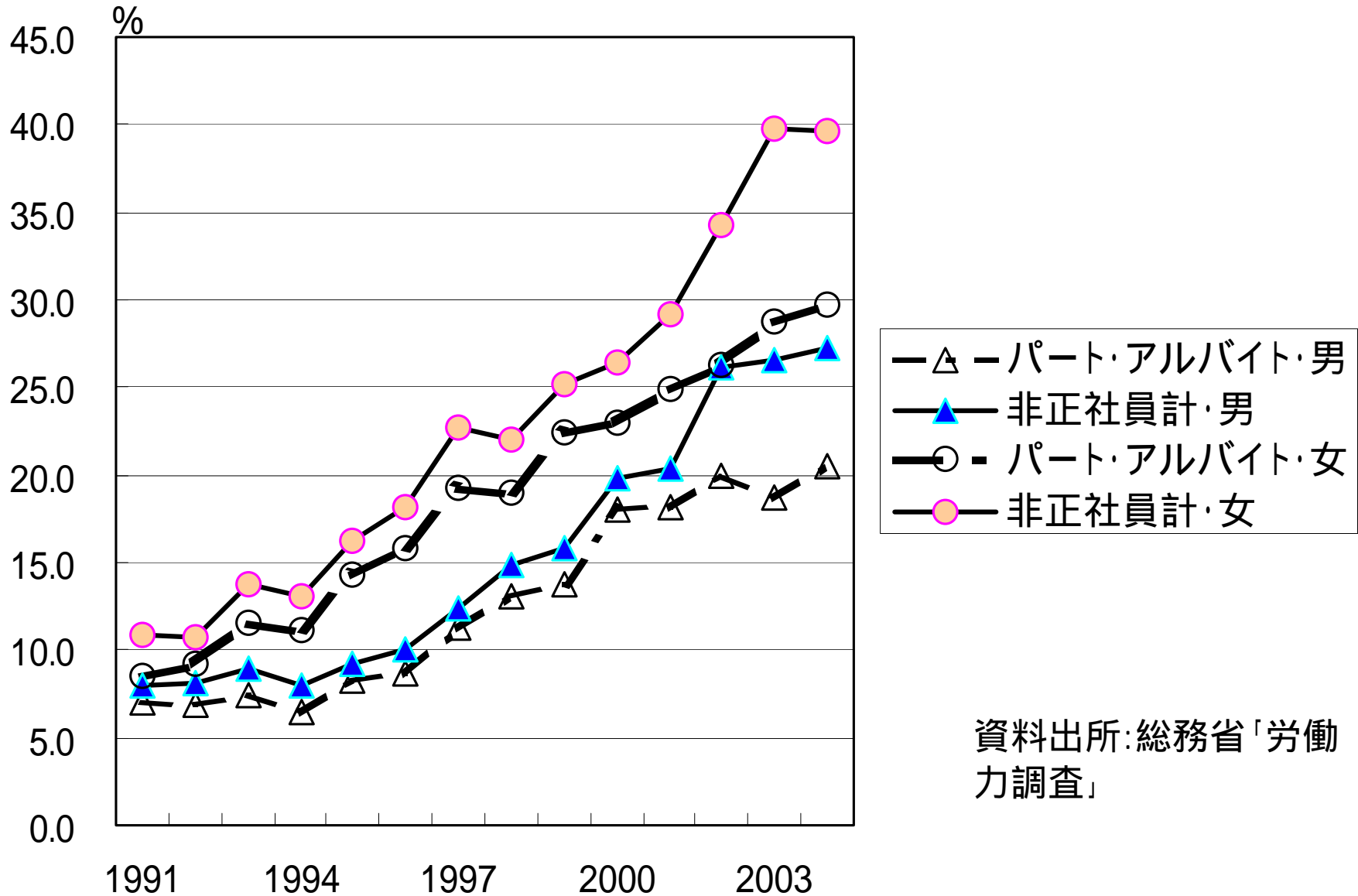
資料出所:「労働力調査特別調査」(2月)・2002年以降は「労働力調査詳細集計」

失業率(性・年齢・学歴別)

	男性	女性
15～24歳(卒業者)	13.6	9.2
中学・高校	14.8	12.8
短大・高専	5.0	5.2
大学・大学院	15.9	5.7
25～34歳(卒業者)	5.7	7.2
中学・高校	7.6	8.9
短大・高専	4.7	6.2
大学・大学院	3.5	4.8

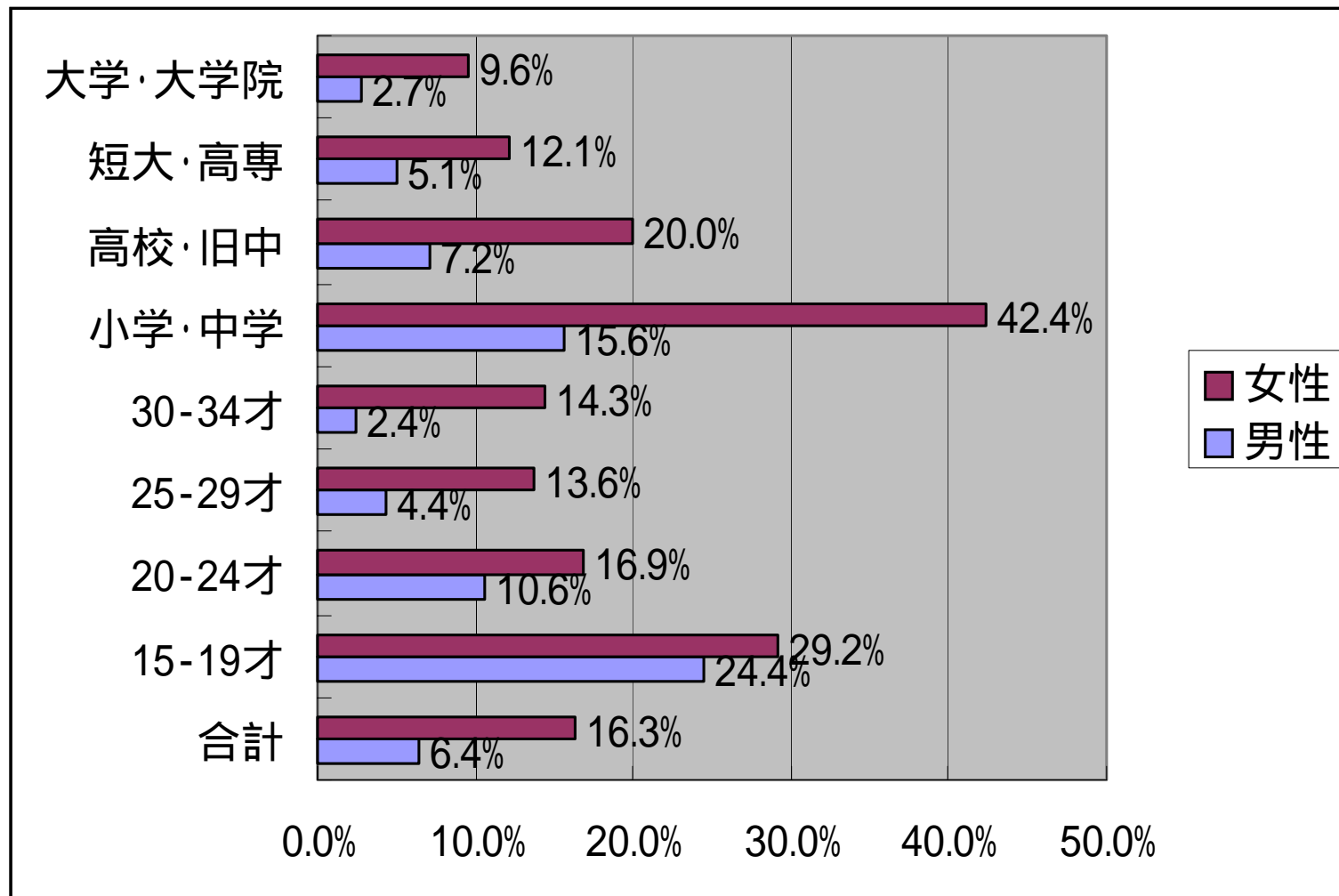
資料出所:総務
省「労働力調
査」2003年7-9
月

アルバイト・パート及び非正社員比率(15-24歳)



資料出所:総務省「労働力調査」

学歴・年齢別フリーター率



資料出所: 日本労働研究機構(2002)「若者の就業行動に関するデータブックー就業構造基本調査の再分析より」。

イギリスのNEET

◆ Not in Education, Employment or Training

- ◆ 学校にも、雇用にも、職業訓練にも参加していない若者
= 16～18歳人口の9% (161,000人) を占める。その後も訓練に参加せず、失業や社会福祉給付受給者、薬物乱用者や刑法犯、ホームレスになる可能性が低くない。社会的コストとなる可能性大。

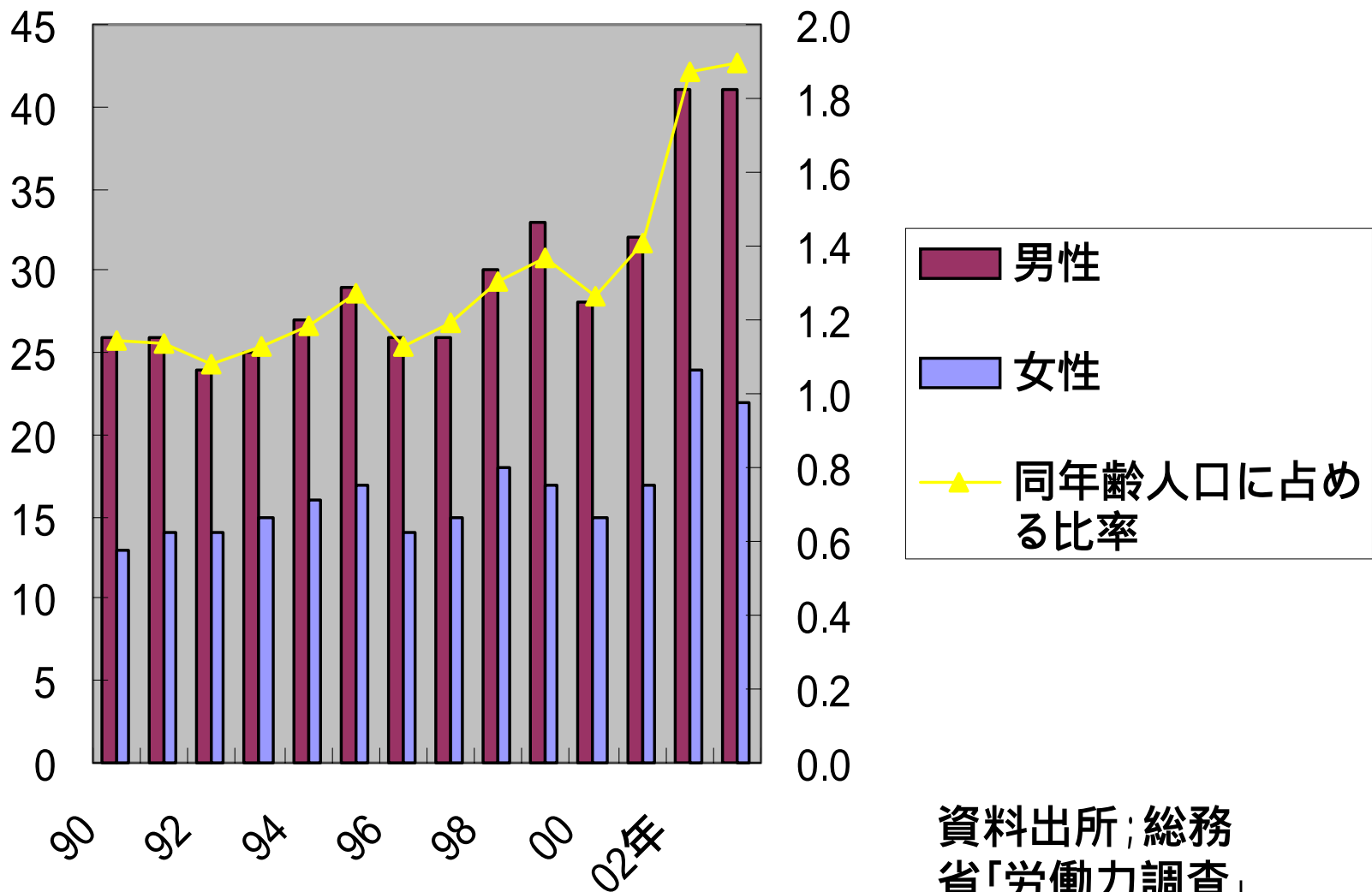
The Social Exclusion Unit 1999

“Bridging the Gap—New Opportunities for 16-18year olds not in education, employment or training”

日本のNEETは？

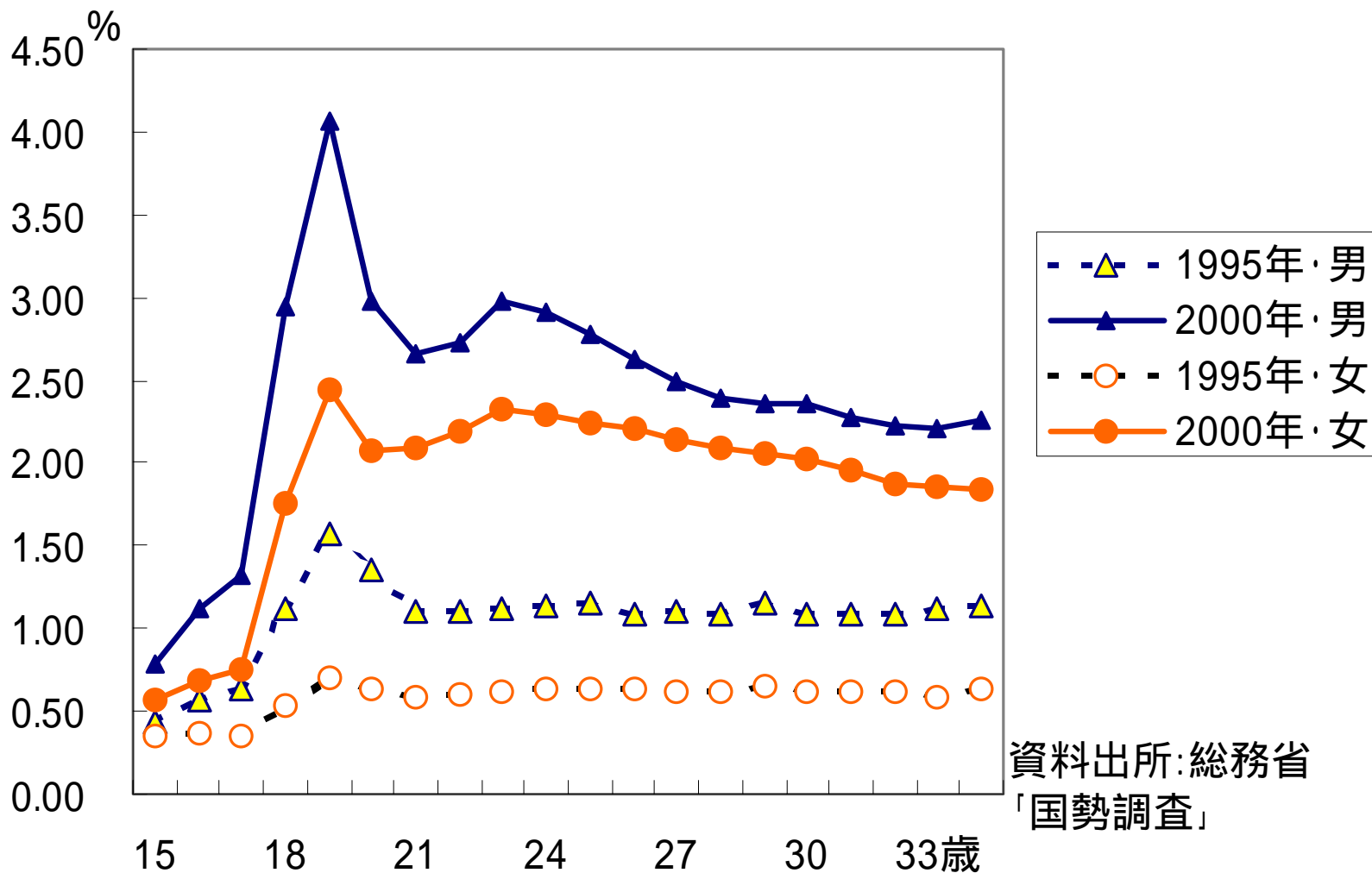
- ◆ 政策の系譜、就学状況がイギリスとは異なる。
- ◆ 提案：社会活動に参加していないため、将来の社会的なコストになる可能性があり、現在の就業支援策では十分活性化できていない存在
- ◆ 統計的に把握するための操作的定義
= 「非労働力(仕事をしていないし、また、失業者として求職活動をしていない)のうち、主に通学でも、主に家事でもない者」
政策対象としての年齢は15-34歳

非通学・非家事の非労働力人口、および人口に対する比率(15 34歳)



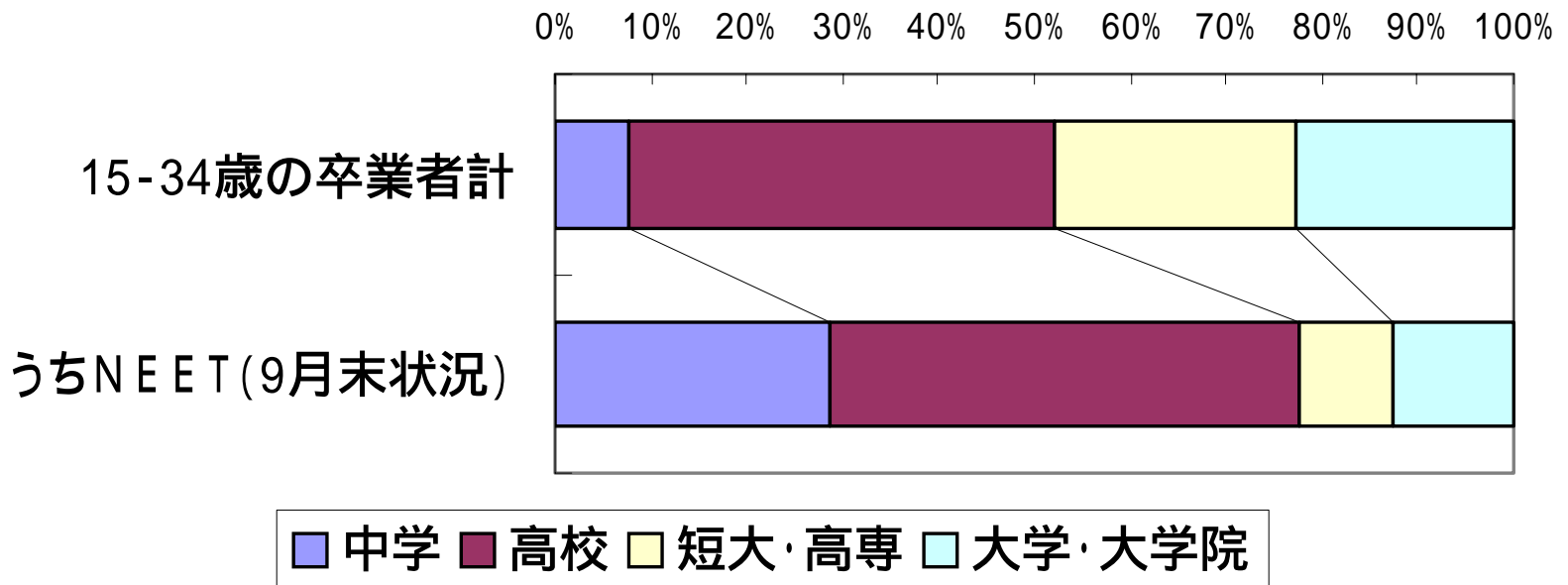
資料出所;総務省「労働力調査」

非通学・非家事の非労働力(人口に占める比)



資料出所:総務省
「国勢調査」

NEETの学歴分布



就業状況の変化

◆ 若年失業率の上昇

若いほど・学歴が低いほど失業しやすい(除大卒男子)

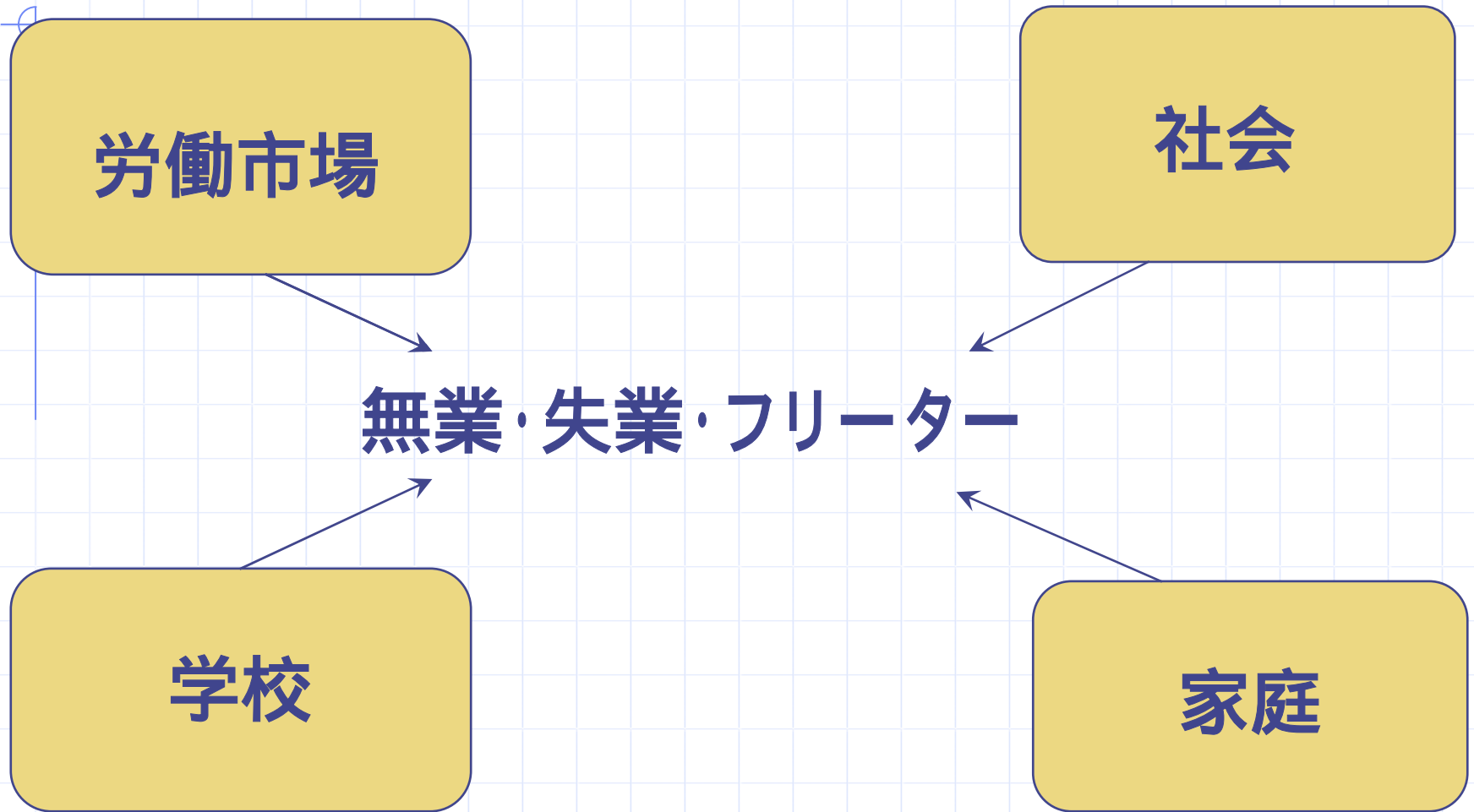
◆ 正社員以外の雇用の拡大

アルバイト・パートの半数以上は正社員並に働く、その他非典型雇用の増加

◆ 日本でもNEET問題？

英: Not in Education, Employment or Training
対策に乗らない
移行困難層

職業への移行困難な若者の背景



労働市場

変化：高付加価値型労働需要

雇用慣行変化・多様化

景気後退（：特に地方経済）

継続：新卒一括採用・非典型の格差・

中途採用の限定・

年齢規範＝やり直し不可

就職先：

不本意就職

若手正社員の負担増加

学校：

高校：キャリア教育の欠如

**低位校：社会化の失敗・意欲形成
の失敗**

高等教育：

職業的レリバンスのなさ

キャリア教育の欠如

社会：

ソーシャルネットワーク：

仲間集団で凝縮し閉じる

離学により縮小し孤立化

職場と地域のネットワークの弱体化

ジェンダー：

キャリア期待ない女性

家庭

厳しい家計(都市):

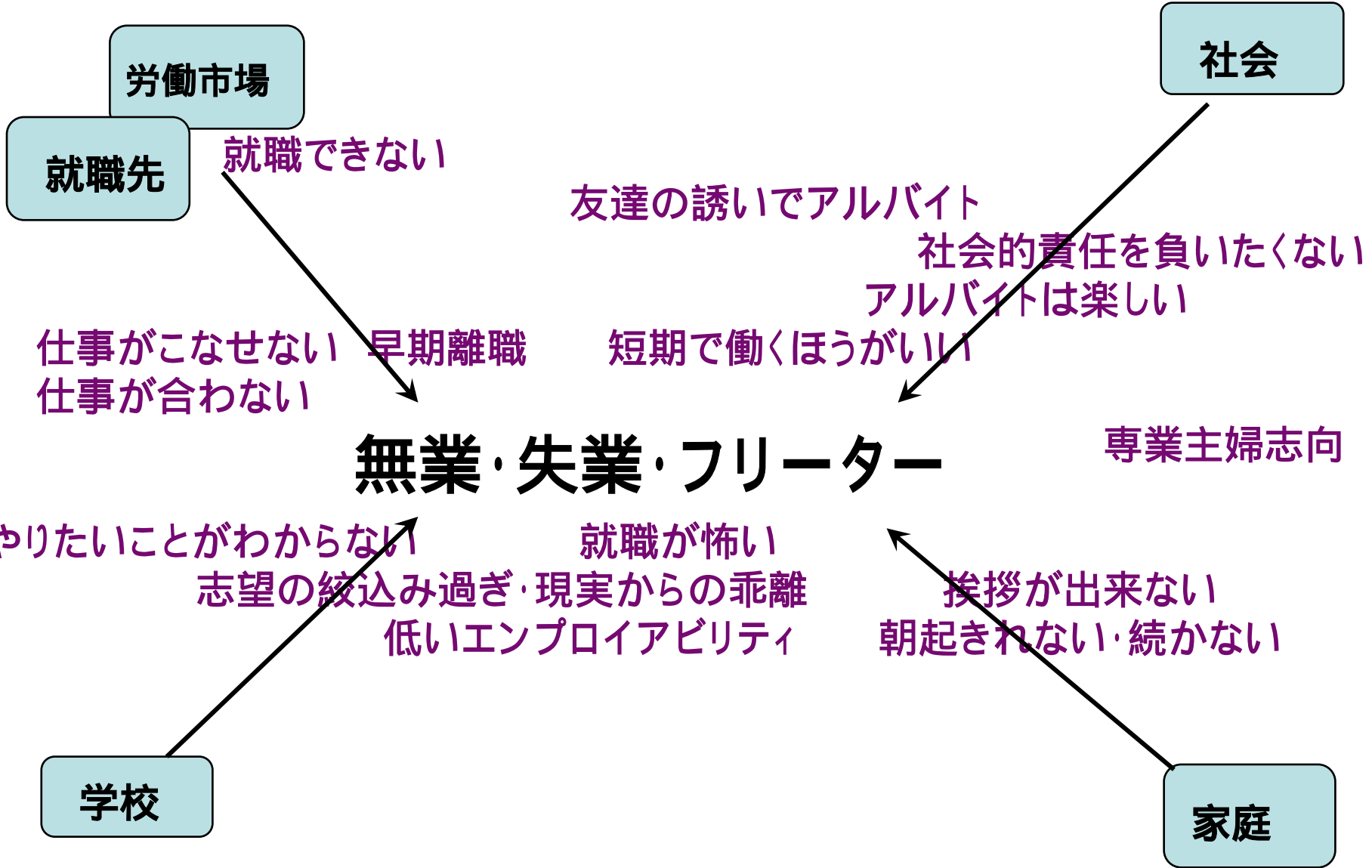
子どもへの無関心・低い期待水準・
欧米型の社会的排除

地方

少子化の中で地域移動の減少

高学歴家庭:教育成果への期待大

プレッシャー・自己実現への理解
パラサイト



● 刹那を生きる

中等教育卒や中退、学業不振・遅刻が多い。学校は友達に会う場所。親も非典型雇用が多く家計は豊かでない。高校時代からアルバイト遊ぶ金を稼ぐ。同世代同地域の友人との世界が居場所。職業的将来に期待は持っていない。朝起きれないなど、生活習慣レベルでの課題も抱えている。

● つながりを失う

早い学校段階で、友人関係のつまづきなど様々な理由から離学する。高等教育や就職後のこともある。ソーシャルネットワークが切れ、孤立化していくことが多く、職業への移行の前に、社会的関係の構築が課題となる。

● 立ちすくむ

高等教育卒業段階で、いったん就職活動はするがキャリアの方向付けが出来ず、限定的な就職活動で終わる。親の養育態度は教育達成に関心を持ち、自己実現志向にも理解があることが多い。暮らし向きは普通。大学進学時にも職業的自覚はなかった。就職できないことを親に申し訳ないと思っている。

● 自信を失う

学卒時に就職するが、早期に離職し無業やアルバイトで過ごしている。与えられた仕事を十分こなせず、仕事が合わないと離職した。クビに近い形あることも少なくない。労働条件も相対的に悪いケースが多い。精神的にも疲れている状態。次ぎの仕事はじっくり探したい。

今後の支援の方向性

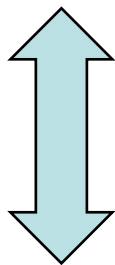
◆ 多様な時期に多面的な背景の下に無業化する若者

かつ、その背景は互いに影響しあう



全体的で、継続的な = ホリスティックな支援

学校の中で



学校の外で

キャリア教育と就職支援
職業の世界との接点拡大
職業情報と進路相談
教育と職業のレリバンス

在学中からのサポートと可能性の提示
相談と情報（職業・雇用・能力開発）
職業能力開発の多様な機会 / 試し雇用
能力評価 / 中途採用・内部登用促進

産業政策・雇用政策・健全育成・福祉・医療